

【学校教育目標】知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成



学校だより

鈴鹿市立愛宕小学校

令和6年11月20日

No. 22



第2回学校保健委員会・第4回学校運営協議会をひらきました(11月12日)

愛宕小では、年間に学校保健委員会を3回、学校運営協議会を6回行っています。

この日は、前半に学校保健委員会を行い、学校三師（学校医：駒田先生、学校歯科医：北川先生、学校薬剤師：武内先生）、学校側（校長・教頭・養護教諭）の他に、学校運営協議会委員の皆様、教育委員会のコミュニティスクール担当（加藤先生）も参加し、拡大版で実施しました。



●学校保健委員会とは

学校における心身の健康問題を研究協議し、健康づくりを推進する組織です。様々な健康問題に適切に対処するため、家庭、地域社会等の教育力を充実する観点から、学校と家庭、地域社会を結ぶ組織です。

●学校保健委員会の開催は「開かれた学校づくり」を推進します

子どもの健康問題の解決には、学校・家庭・地域社会の連携した取組で効果が期待できます。また、多様化、複雑化する健康問題への対応には、必要な知識や技能をもった地域の人々や専門家の協力が大きな力となります。このような方々との連携した取組や、教育活動への参加協力などについて理解を図る学校保健委員会の開催は、「開かれた学校づくり」を推進するものです。

【学校保健委員会マニュアル

(財団法人 日本学校保健会) より】

学校三師の方々からは、「運動が二極化している傾向を受け、運動不足の子をどう高めるか」「過激な運動によって体を壊すような子をどう防ぐか」が問われているというお話がありました。

今回の主な議事は、

○2学期の身体測定・視力検査・歯科健診の結果

○9～10月の欠席状況や保健室利用状況

○第2回生活習慣チェックシート結果です。養護教諭（町谷）よりそれぞれの結果とそこから分かってきた以下の点をご報告させていただきました。

・R4・5・6年度と、年々、中等度（30%以上）肥満が減少傾向にある。

・R5年度に比べR6年度は、視力検査結果A判定（視力1.0以上）の割合が5年生以外の学年で減少した。視力低下の原因として、スマホ・タブレットと目の距離が影響しているという文科省調査結果も出ているようだ。

・保健室利用は、9月に比べ、10月は怪我より病気での来室が増加。その理由として、「しんどい」「頭痛」が多く、朝食を食べていなかったり、前日の就寝が遅かったりする児童が見られた。

※第2回生活習慣チェックシートの結果は、後日、マチコミにてお伝えいたします。

後半は、学校運営協議会を行い、最近の学校の様子をお伝えし、以下のような話し合いが為されました。一部を紹介します。

○津波避難訓練（10月28日）に関わって

- ・踏切が下がりっぱなしになることも想定される。白子駅方面からは線路が一直線であるが、千代崎駅方面からはカーブになっているので目視で確認ができない。また、建物や塀の倒壊も想定される。
- ・万が一踏切を通れない場合等、避難経路が通れないことを想定して、迂回路をいくつか知っておく必要がある。状況によっては分かれて避難することも想定される。

○11月いじめ防止強化月間に関わって

※11月19日（月）「ピンクシャツデー」として、教職員、児童がピンクの物を身に着ける。

- ・なぜピンクなのか、子どもたちは理解しているのか。

→昨年は児童会が児童集会でピンクシャツデーの意義を発表した。今年度も意義を理解できる取組を継続していく。

※年度当初より様々な行事等で、意識的に非認知能力（やり抜く力・自制心・社会性・自己肯定感）向上を目指して取り組んできた。今後取り組む運動会後のペア学年でのメッセージ交換やリーディングパディの取組を通して、自己肯定感等の育成をめざし、いじめ防止の素地をつくりたい。

- ・「あいさつ」も非認知能力の育成にとっても大切である。「知らない人には声をかけない」とあるが、日頃からの関係づくりが大切である。それができれば、声のかけあい（あいさつ）は自然と生まれるだろう。犯罪の抑止にもつながる。地域でも意識して広げたい。

○学びの変容に関わって

※授業スタイルが教師主導の一斉（単線型）から、子ども主体（複線型）への転換が求められている。

愛宕小では、毎回の授業がそうなるわけではないが、ICTを活用し、自分の考えを主体的に表現・発信する場面を大切にする授業を目指している。

- ・たぶん、子どもはすぐに馴染むだろう。小学校の「主体的」から、中学・高校になると「総合的」な学びに進んでいくようだ。学校で習ったことを、どう使うかが今後大切になる。

◆ 6年生「くすりの正しい使い方教室」(11月11日)

6年保健「お酒とたばこの害」の学習と関連し、学校薬剤師の武内先生から、薬の正しい使い方、オーバードーズ（医薬品の過剰摂取）の危険性、お酒・たばこ・薬物等の害についてお話を聞きました。薬を服用するときは、用法や用量を守ること、健康に悪影響を及ぼすものなどを知り、自分の健康について考えるよい機会となりました。



・・・薬が日本にどのように伝わってきたのか、薬は血液に入ることによって効果をはたきするなどが、心に残っています。そして、たばこを吸っている人と吸っていない人の比かく写真を見たとき、すごくおどろきました。お酒も同じです。・・・たばこや酒はがんになるかくりつが1.3～30倍まで上がると知り、こんなにも差があるのかと思いました。（6年児童 ふり返り感想より）